



Exhibition: Institute for Making School Fun

なんでそんなん博物館／夏の特別企画展 学校のおもしろがり方研究所

事例タイトル | 水の水割り 行為者 | 愛子ママとチッチキチキオ 発見者 | 始動員T

神の舌を持つチッチキチキオ君は、学校の給食を一切口にしない。なので、午後になると空腹に耐え切れず、帰宅しようと脱走を図ることが度々あった。「体のために一口でもいいから給食を食べなさい。」保健室の先生の指導から逃れようと、ある日、通級指導教室に避難してきたチキオ君。そして、職員室前廊下で「腹減った～」と転げまわる彼に、窓口からコップ一杯の水を差し出したのは愛子教諭。「塩舐めて、水の水割りでも飲んでいきな。」愛子教諭に促されるまま塩を舐め、水の水割りを一気に飲み干すと、笑顔になったチキオ君。以後、職員室の窓口を「スナック愛子」に模様替えしたところ、チキオ君は毎日顔を出し、キープソルトをするほどの常連客となった。そして、水の水割りと愛子ママの愛で身も心も満たされたのか、脱走を図ることはなくなった。



日時 2025.8/5 tue — 10/31 fri 10:30 - 16:30

会場 なんでそんなん博物館 (岡山県倉敷市西阿知町528)

なんでそんなん博物館 / 夏の特別企画展 学校のおもしろがり方研究所

この夏、なんでそんなん博物館では、横須賀市立明浜小学校ことばの教室の教諭・高松智行さんと協働し、「夏の特別企画展／学校のおもしろがり方研究所」を開催いたします。本展では、同教室の取り組みを通して、学校教育における新たな可能性を探ります。この教室で大切にされているのは、子どもの「違い」を「課題」として矯正するのではなく、ポジティブに解釈し、その中に個性や魅力を見出す「*なんでそんなん!？」の視点です。たとえば、「室外機」との心の交流を即興のパフォーマンスに昇華させた少年。吃音を「直す」よりも、自分らしい表現をとことん追求めた異才。「不平不満」をユーモアに変えて人とつながり、自分の世界と教室に「ニューウィンドウ」を吹かせた表現者。唯一無二の世界観を他者と分かち合いながら、人への信頼とともに声を回復させていった緘黙の少年。そうした子どもたちの多様な姿と、それらを尊重しながら日々ともに歩んできた教室の実践を、展示というかたちでご紹介いたします。「違い」がそのままのかたちで受け入れられ、笑顔や喜びに変わっていく。そんな「学校のおもしろがり方」のヒントを、ぜひ会場でご体感ください。

イベント EVENT 全イベント無料 会場 | ひよん お申込み | 必要 / ですが当日飛込参加歓迎

8/19 tue | トーク | 高松せんせいの学校のおもしろがり方【実践発表】

17:00 - 18:30 展示物の解説と高松先生がこれまで取り組んできた学校におけるユニークな実践をご紹介します。学校教育関係者以外の方が聞いても目からウロコがおちますよ

10/26 sun | 基調講演 | 講師 牧野泰美 | 今ある力を活かす

10:00 - 11:30 特別支援教育の研究者である牧野泰美先生をお招きして、学校という枠組みを問い直し、子どもの力を信じ、今ある力を活かす教育のあり方をお話いただきます。

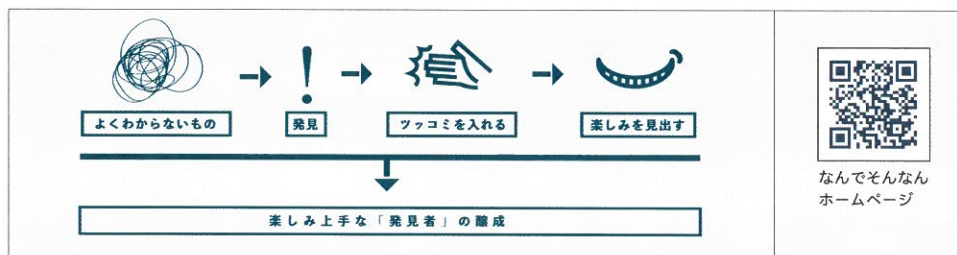
トークセッション | なんでそんなん と 教育

11:30 - 12:30 高松先生の実践を参照しつつ、「なんでそんなん」の視点と学校教育について教育、芸術、福祉分野の登壇者とお話します。
登壇者 | 牧野泰美 (独立行政法人国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員)
高松智行 (横須賀市立明浜小学校教諭 / カマクラ図工室主宰 / なんでそんなん博物館初代館長)
柳沢秀行 (公益財団法人大原芸術財団シニアアドバイザー / なんでそんなん博物館館長(代理補佐))
滝沢達史 (ホハル代表 / 美術家)

ワークショップ | なんでそんなん発見隊

13:30 - 15:00 なんでそんなんを見つけるワークショップを開催します。ふとした家族の行動に名前をつけると違った印象に感じる! ? お気軽にご参加ください。対象 | 小・中・高校生 + ご家族

*なんでそんなんプロジェクト NANDESONNAN PROJECT



なんでそんなん博物館 (ひよん併設) / お問い合わせ / お申込み INFORMATION

営業日 | 月～金 / 毎月第1土曜日
定休日 | 土 / 日 / 毎月第1月曜日
時間 | 10:30～16:30
contact@nandesonnann.com
090-2861-7132
086-697-6609
nandesonnann.com
710-0807岡山県倉敷市西阿知町528
運営 | 株式会社ぬか



写真について | A=とめごない不満を万華鏡にしたためた【ふまんげ鏡】 | B=ことばの教室の様子 | C= お経を読む時は吃らない【読経少年隊】 | D=ある児童のランドセル収納場所【定位置】



牧野泰美 Yasumi Makino

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所上席総括研究員、(兼) 研究企画部長、(兼) 西日本プランチ広島オフィス長。岐阜県生まれ。横浜国立大学大学院教育学研究科障害児教育専攻修了後、岐阜県立岐阜聾学校教諭を経て、1992年8月より国立特別支援教育総合研究所(現: 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所) 研究員。同研究所主任研究員、総括研究員を経て現職。専門は言語障害教育、言語獲得、吃音、コミュニケーション障害とその支援など。「全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会(全難言協)」をはじめ、各地の「きこえとことばの教室」の先生方や、親の会等と連携しながら、子どものことばやコミュニケーションへの支援の在り方、きこえとことばの教室の役割などについて研究活動を進めている。また、教員養成の大学等で言語理論や言語指導の講義も担当している。



高松智行 Tomoyuki Takamatsu 本展企画者

京都市生まれ。横浜国立大学卒業後、神奈川県立小中学校や横浜国立大学附属鎌倉小学校の教員として美術鑑賞教育に携る傍ら、美術館や無言館を舞台に子どもたちの成長を描いたドキュメンタリー映画や現役小学校が舞台のアートプロジェクト「鎌倉なんかナレー」の企画者として活動。2014年より「カマクラ図工室」を主宰し、教員やアーティストらと共に小中学生の「未定調和」の旅をサポートするなど、学校の内外を行き来しながら教育のカたちを模索中。2021年よりことばの教室の教員となり、岡山県での生活介護事業所めぐつことが主宰する「なんでそんなんプロジェクト」をインストールした教室運営を試みている。https://kamazu.work